

主要施策名:(1)道路交通体系の整備

事務事業本数:7

基本目標(章)	主要施策(節)	施策区分	事務事業コード	事務事業	所管課
④便利で快適な都市づくり	(1)道路交通体系の整備	(1)広域交通ネットワークの整備	411-1	道路改良推進事業(土木インフラ管理推進事業)	土木課
		(2)生活道路網の整備	412-1	道路維持事業	土木課
			412-2	道路メンテナンスサイクル事業(舗装)	土木課
			412-3	道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)	土木課
			412-4	道路新設改良事業	土木課
			412-5	社会資本整備総合交付金(六栄線)	土木課
			412-6	橋りょうメンテナンスサイクル事業	土木課

事務ふりかえりシート

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	道路改良推進事業(土木インフラ管理推進事業)		所管課 【2】	土木課
			作成者(担当者)	松本 浩二
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	④便利で快適な都市づくり		
	主要施策(節)	(1)道路交通体系の整備		
	施策区分	(1)広域交通ネットワークの整備		
重点 施策 【4】				
	<input type="checkbox"/> 該当			
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input type="checkbox"/> 市長公約 <input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【 道路法、道路構造令、河川法 】 <input checked="" type="checkbox"/> その他の計画【 公共施設等総合管理計画 】 <input type="checkbox"/> 該当なし			
事業区分 【6】	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的事业 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設の維持管理事業 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定及び進捗管理事務			
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【		】	款 8 項 2 目 1 細目 1

《事務事業の目的》

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	道路管理の根幹を形成するとともに、地方交付税交付金の重要な算定根拠である道路台帳が、法令を遵守していないだけでなく、令和5年度交付税検査において、熊本県より道路台帳電子化を実施し再整備することで、正確な数値で受験することを提言されている。そこで、道路法及び河川法で調製及び保管が義務付けられている道路台帳、河川台帳の整備を電子化を踏まえて実施する。その他、県内道路、河川整備を促進するため、関係市町や団体が連携し、関係省庁や国会議員等に要望活動も併せて行う。
対象 (誰、何に対して、受益者等) 【9】	市民。交付税検査員。開発業者等。市道。準用河川。玉名市が加入する各種道路・河川整備関係協議会、期成会、会議等。
意図 (どのような状態にしたいか) 【10】	熊本県からの提言を受け、道路台帳整備(電子化含む)により、正確な数値による地方交付税交付金の交付を目指すべく、道路法・河川法の法令遵守の根幹となる各台帳等の適切な整備・調整・保管を一刻も早く実施する。そして、適切な管理による住民サービスの向上や災害対策の円滑化を目指すとともに、関係機関との協力体制の構築による地域経済活動の向上につなげる。

《事務事業の概要》

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】 【 H17 年度から】 【 年度～ 年度まで】
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【
実施方法 【13】	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【
事務事業の具体的内容 【14】	正確な数値による地方交付税交付金の交付を目指すべく、道路法・河川法の法令遵守の根幹となる各台帳等の適切な整備・調整・保管を一刻も早く実施する。 道路要望団体に対し、要望活動に参加し、負担金支出を通じて、事業の進捗を支援する。 期成会事務局を所管し、総会事務の執行及び経理決算を行う。
	【15】 事務事業を構成する細事業(4)本 ⇒ ① 期成会等負担金支出業務 ② 準用河川台帳作成業務委託事業 ③ 市道認定に関する業務

《事務事業実施に係るコスト》

		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	全体計画	
投入コスト	事業費 (千円)	国庫支出金	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	
		一般財源	6,333	13,097	7,040	7,580	
	【16】 小計	6,333	13,097	7,040	7,580	0	
	職人 員 の 費	職員人工数	0.80	1.00	0.48	0.00	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,476	5,223	5,429	5,451	
		会計年度任用職員人工数	0.00	0.00	0.00	0.00	
会計年度任用職員の年間平均給与額(千円)		1,950	1,632	1,382	1,291		
【17】 小計	4,381	5,223	2,606	0			
合計	10,714	18,320	9,646	7,580			

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R02実績	R03実績	R04実績	R05計画
① 期成会等負担金支出業務	負担金を支出することにより業務の遂行を図る。	負担金支出回数	回	6	6	6	6
② 準用河川台帳作成業務委託事業	市道の認定及び廃止等の処理を行う。	議案提出回数	回	1	1	1	1
③ 市道認定に関する業務	道路台帳の修正業務を行う。	市道修正路線件数	件	87	0	14	100

《事務事業の成果》 【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R02目標	R03目標	R04目標	R05目標
			R02実績	R03実績	R04実績	R05実績
1 道路台帳修正実施率	道路台帳の修正延長/市道認定(廃止)延長	%	100	100	100	100
2			100	0	100	

《事務事業の評価》

	評価視点	判断理由
(必 要 当 性 性) 【20】	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない 市が実施するよう法令等で義務づけられている。
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり 社会情勢の変化はあるものの、道路改良を推進するための状況は変化しておらず、目的の見直しは必要ない。
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり 道路台帳の修正を行わなければ、建築確認等において道路の正しい幅員を示すことができず、市民生活に支障を来す恐れがある。
有 効 性 【21】	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。未達成の場合、原因はどのようなことが考えられるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成 計画的に道路台帳の修正を行うことができたため。
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当 事業目的に沿う形で細事業化しており、適当である。
効 率 性 【22】	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり 将来的に道路台帳を電子化することで、毎年の平面図の製図等についてコスト低減が図れる余地がある。
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり 道路台帳の電子化の余地がある。
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 業務委託等の民間ノウハウの活用を行っており、これ以上の検討の余地はない。
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 類似する事業が他にない。
公 平 性 【23】	受益者負担について、検討の余地はないか。徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし 道路改良は公共性が高く行政が行うよう義務付けられており、受益者負担はなじまない。

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して 見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)
	道路台帳整備においては、年度末での委託では工事完了分が反映されないため、事業翌年度に当該年度分を発注するよう手順を見直す。また、行政情報のオープンデータ化に対応した道路GISに向けて道路情報を整理し電子化を進めていく必要がある。期成会活動においては、関係市町団体と連携して推進していく。
【24】	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)
	道路台帳整備においては、年度末での市道認定作業が間に合わず、手法見直しを検討する。期成会活動においては、新型コロナウイルス拡大の影響が引き続きあったが、実施できた。
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了
	【25】
今後の方向性に対する 見直し・改善の具体的な内容	道路台帳整備においては、年度末での委託では工事完了分が反映されないため、事業翌年度に当該年度分を発注するよう手順を見直す。また、行政情報のオープンデータ化に対応した道路GISに向けて道路情報を整理し電子化を進めていく必要がある。期成会活動においては、関係市町団体と連携して推進していく。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【26】	今後も道路台帳修正業務については、台帳の修正を適正に行っていく。また、期成会活動についても、各事業の実現・促進のため、関係機関へ積極的な働きかけを展開していく。	評価責任者 田上 幸二
----------------------	--	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R02実績	R03実績	R04実績	R05計画
① 市道維持修繕事業	劣化等した道路の修繕を行う。	道路修繕箇所	箇所	172	188	179	185
② 市道除草業務委託事業	委託により道路の除草作業を行う。	市道除草委託件数	件	15	12	13	14
③ 市道維持管理借上料事業	生活道路を整備するものに対し、機械借上料を支給する	機械借上件数	件	236	207	200	220

《事務事業の成果》 【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R02目標	R03目標	R04目標	R05目標
			R02実績	R03実績	R04実績	R05実績
1 市道除草業務委託面積	除草を行った面積	m ²	358316 362261	370077 369187	374644 364794	383174
2 未登記関係処理件数	未登記関係の処理件数(筆数)	件	34 32	40 31	35 25	30

《事務事業の評価》

	評価視点	判断理由
必 要 当 性 【20】	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない 道路施設の管理者である市が維持管理を行うよう法令等で義務付けられているため
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり 社会情勢の変化はあるものの、一般交通に支障がないように道路を管理することは現在の情勢でも必要だと考えるため、目的の見直しは必要ない。
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり 道路が維持できないことにより、一般交通に甚大な影響が出る。
有 効 性 【21】	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。未達成の場合、原因はどのようなことが考えられるか。	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成 工事発注時に使用する積算単価(材料費、人件費など)が予算要求時よりも高くなり、予算内で施工するには面積を減らさざるを得なかったため。
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当 良好な交通環境を維持するために、現在の細事業の構成は適当である。
効 率 性 【22】	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり 毎年除草を行っている箇所について防草シート等を張り、複数年度で考えた際のコストダウンについて検討の余地がある。
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 日常の維持管理業務にICTを導入するなど常に改善の検討を行っている。
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり 検討の余地があると認識しているため、一部地域や路線について、民間業者が主体的に維持修繕活動を行えるシステムの試行段階にある。
公 平 性 【23】	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 道路メンテナンス事業と類似しているが、左記事業は交付金、起債を受けているため統合できない。
	受益者負担について、検討の余地はないか。徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし 受益者は市民全体であるため、特定の対象に負担金を徴することは適当ではない。

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【24】	(前回のふりかえりの内容) 今後は、要望箇所の修繕を効率的に行ない、安全対策及び減災対策を計画的に実施していきたい。
	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況) 道路の安全対策については、重要路線であり、問い合わせ件数も多い青木小袋線の竹伐採を2年連続で実施できている。また、左記路線について包括業務委託を発注したことで、対応を効率的かつ迅速に行うシステムが構築できた。減災対策については排水路の土砂撤去等を引き続き実施し、内水被害の防止等に努めていく。
今後の方向性 【25】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的な内容	上記に示した通り、路線の包括業務委託については一定の成果を収めた。他の問い合わせの多い重要路線についても同様の成果が挙げられるよう実施していきたい。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【26】	今後も業務の改善を図りながら、効率的なメンテナンスサイクルを構築し、市民の安全・安心に寄与していく。	評価責任者 田上 幸二
-------------------	--	----------------

事務ふりかえりシート

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	道路メンテナンスサイクル事業(舗装)		所管課 【2】	土木課
			作成者(担当者)	増永 美由紀
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	④便利で快適な都市づくり		
	主要施策(節)	(1)道路交通体系の整備		
	施策区分	(2)生活道路網の整備		
重点 施策 【4】	■ 該当			
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input checked="" type="checkbox"/> 市長公約 <input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【 道路法、道路法施行令、道路法施行規則 】 <input checked="" type="checkbox"/> その他の計画【 玉名市公共施設等総合管理計画、道路メンテナンスサイクル(舗装)計画 】 <input type="checkbox"/> 該当なし			
事業区分 【6】	<input type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的事业 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input checked="" type="checkbox"/> 施設の維持管理事業 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定及び進捗管理事務			
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【		】	款 8 項 2 目 2 細目 2

《事務事業の目的》

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	2012年の笹子トンネルの崩落事故を受け、インフラ老朽化対策が急務となった。そんな中、現在の乏しい財源で市民生活を根底から支えるライフラインを永続して維持管理していかなければならない。
対象 (誰、何に対して、受益者等) 【9】	市道利用者(市民全般)
意図 (どのような状態にしたいか) 【10】	ライフライン(市道)の中で舗装に着目し、永続して維持管理することで第三者被害を防止する。

《事務事業の概要》

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】 【 R2 年度から】 【 年度～ 年度まで】
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【
実施方法 【13】	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【
事務事業の具体的内容 【14】	舗装のメンテナンスサイクル(点検→診断→措置→記録)を確立し運用していく。
	【15】 事務事業を構成する細事業(10)本 ⇒ ① 道路メンテナンスサイクル(舗装)措置(交付金事業) ② 道路メンテナンスサイクル(舗装)措置(起債事業) ③ 道路メンテナンスサイクル(舗装)措置(交付金事業)補正

《事務事業実施に係るコスト》

		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	全体計画	
投入コスト	事業費 (千円)	国庫支出金	42,646	102,000	112,333	56,122	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	162,000	192,000	217,000	157,400	0
		受益者負担	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	19,687	26,914	38,275	28,723	0
	【16】 小計	224,333	320,914	367,608	242,245	0	
	職人 員 の 費	職員人工数	1.70	1.90	1.90	1.70	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,476	5,223	5,429	5,451	
		会計年度任用職員人工数	0.00	0.00	0.00	0.00	
会計年度任用職員の年間平均給与額(千円)		1,950	1,632	1,382	1,291		
【17】 小計	9,309	9,924	10,315	9,267			
合計	233,642	330,838	377,923	251,512			

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R02実績	R03実績	R04実績	R05計画
① 道路メンテナンスサイクル(舗装)措置(交付金事業)	損傷の進行が早い道路に対し交付金事業を活用し舗装工事を行う。	工事発注件数	件	8	6	7	7
② 道路メンテナンスサイクル(舗装)措置(起債事業)	損傷の進行が早い道路に対し市単独費で舗装工事、側溝改良工事及び区画線設置等の維持工事を行う。	工事発注件数	件	22	24	25	22
③ 道路メンテナンスサイクル(舗装)措置(交付金事業)補正	損傷の進行が早い道路に対し交付金事業を活用し舗装工事を行う。	工事発注件数	件	***	5	4	1

《事務事業の成果》 【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R02目標	R03目標	R04目標	R05目標
			R02実績	R03実績	R04実績	
1 舗装整備延長	整備した市道の路線延長	m	4820 4967	5320 6144	6740 5382	4211
2 側溝改良整備延長	側溝改良した市道の路線数	m	660 577	830 706	790 483	675

《事務事業の評価》

	評価視点	判断理由
(妥当性)	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない 道路施設の管理者である市が維持管理を行うよう法令等で義務付けられている
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり 実施背景に記載している内容は国から本事業の実施を求められるきっかけとなったものであり、現在でも変化していないため見直す必要はない
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり 道路利用者に被害が発生しないように道路施設の管理者である市が維持管理を行っているため、仮に事業を休止・廃止した場合、路面劣化による通行不可区間が発生するといった支障をきたす
有効性	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。未達成の場合、原因はどのようなことが考えられるか。	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成 未達成の要因としては、工事発注時に使用する積算単価(材料費、人件費など)が予算要求時よりも高くなり、予算内で施工するには予定していた延長よりも短い延長でないと発注できなかったため
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当 メンテナンスサイクルの項目に基づき細事業を設定しているため適当である
効率性	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 点検結果により措置内容が決定するため検討の余地はない
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり AIによる画像解析を用いた路面点検や日常の維持管理業務にICTを導入するなど常に改善の検討を行っている
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 舗装メンテナンスに活用できる民間の新技術がないかを常に検討しているためそれ以上の余地はない
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 道路維持事業と類似しているが日常の維持管理を行う当該事業と異なり、本事業は国が示す点検要領に基づく点検・診断により措置を講じることで交付金・起債を受けているため、統合できない
公平性	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし 受益者負担について、検討の余地はないか。徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。 道路施設の管理者である市に維持管理を行う義務があり、事業による受益者は市民全体となるため、徴収する検討をする余地はない	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)
	引き続き、舗装長寿命化修繕計画に基づく措置及び地元要望に対して計画的な措置を行っていく。また、舗装メンテナンスサイクルが継続していけるよう、より良い点検・診断・措置・記録の方法を検討していく。
【24】	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)
	交付金だけでなく公共施設等適正管理推進事業債や緊急自然災害防止対策事業債を活用し事業を実施することができた。
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了
【25】	
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	引き続き、舗装長寿命化修繕計画に基づく措置及び地元要望に対して計画的な措置を行っていく。また、舗装メンテナンスサイクルが継続していけるよう、より良い点検・診断・措置・記録の方法を検討していく。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見	交付金や公適債を活用しながら、効率的なメンテナンスサイクルで、道路交通体系の整備を行っていく。	評価責任者
【26】		田上 幸二

事務ふりかえりシート

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)		所管課 【2】	土木課
			作成者(担当者)	増永 美由紀
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	④便利で快適な都市づくり		
	主要施策(節)	(1)道路交通体系の整備		
	施策区分	(2)生活道路網の整備		
重点 施策 【4】	■ 該当			
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input checked="" type="checkbox"/> 市長公約 <input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【 道路法、道路法施行令、道路法施行規則 】 <input checked="" type="checkbox"/> その他の計画【 玉名市公共施設等総合管理計画、玉名市小規模附属物長寿命化修繕計画 】 <input type="checkbox"/> 該当なし			
事業区分 【6】	<input type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的事业 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input checked="" type="checkbox"/> 施設の維持管理事業 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定及び進捗管理事務			
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【 】 款 8 項 2 目 2 細目 3			

《事務事業の目的》

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	2012年の笹子トンネルの崩落事故を受けインフラ老朽化対策が急務となった。そんな中、現在の乏しい財源で市民生活を根底から支えるライフラインを永続して維持管理していかなければならない。
対象 (誰、何に対して、受益者等) 【9】	市民利用者(市民全般)
意図 (どのような状態にしたいか) 【10】	ライフライン(市道)の中で小規模道路附属物(照明灯・道路標識)に着目し、永続して維持管理することで第三者被害を防止する。

《事務事業の概要》

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】 【 R2 年度から】 【 年度～ 年度まで】		
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【 】		
実施方法 【13】	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・請負 <input type="checkbox"/> 一部委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【 】		
事務事業の具体的内容 【14】	小規模道路附属物のメンテナンスサイクル(点検→診断→措置→記録)を確立し運用していく。	⇒	【15】 事務事業を構成する細事業(4)本 ① 道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)点検・診断 ② 道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)措置 ③ 道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)記録

《事務事業実施に係るコスト》

		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	全体計画	
投入コスト	事業費 (千円)	国庫支出金	6,477	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	600	800	0	0
		受益者負担	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	7,124	157	165	0	0
		【16】 小計	13,601	757	965	0	0
	職人 員 の 費	職員人工数	0.65	0.30	0.20	0.20	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,476	5,223	5,429	5,451	
		会計年度任用職員人工数	0.00	0.00	0.00	0.00	
		会計年度任用職員の年間平均給与額(千円)	1,950	1,632	1,382	1,291	
		【17】 小計	3,559	1,567	1,086	1,090	
	合計		17,160	2,324	2,051	1,090	

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R02実績	R03実績	R04実績	R05計画
① 道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)点検・診断	片持ち式(道路照明施設187基・道路標識61基)に対し定期点検を行う。	施設点検数	件	103	***	***	***
② 道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)措置	小規模附属物(道路照明施設、道路標識)の点検結果により措置(更新・修繕)を行う。	措置発注件数	件	***	2	14	***
③ 道路メンテナンスサイクル事業(小規模道路附属物)記録	管理台帳内容に変更が生じた小規模附属物(道路照明施設、道路標識)の更新を行う。	施設の更新登録件数	個所	238	22	***	***

《事務事業の成果》 【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R02目標	R03目標	R04目標	R05目標
			R02実績	R03実績	R04実績	
1 小規模附属物(道路照明施設、道路標識)の補修・更新件数	補修・更新した個所数	個所	***	2	14	***
2			***	2	14	

《事務事業の評価》

	評価視点	判断理由
必要性 【20】	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない 道路施設の管理者である市が維持管理を行うよう法令等で義務付けられている
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり 実施背景に記載している内容は国から本事業の実施を求められるきっかけとなったものであり、現在でも変化していないため見直す必要はない
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり 道路利用者に被害が発生しないように道路施設の管理者である市が維持管理を行っているため、仮に事業を休止・廃止した場合、照明灯具や案内板の落下、支柱の倒壊といった事故が発生する恐れがある
有効性 【21】	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。未達成の場合、原因はどのようなことが考えられるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成 個別施設計画に基づき対象施設の修繕を実施した
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当 メンテナンスサイクルの項目に基づき細事業を設定しているため適当である
効率性 【22】	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 点検結果により措置内容が決定するため検討の余地はない
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 国が示す小規模附属物点検要領に基づいて実施しており、この業務に関しての新技術の開発は行われていないのが現状である。
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 道路施設管理者である市が国の示す小規模附属物点検要領に基づいて実施する事業であり有資格者による施工が求められるため、専門業者に業務を委託発注しており、別途民間活用を検討する余地はない
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 橋梁に添架されている対象施設については点検時期を同時期とするなど一部業務内で連携は取れるが、別の要領に基づき事業を行っているため統合の検討余地はない
公平性 【23】	受益者負担について、検討の余地はないか。徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし 道路施設の管理者である市が維持管理を行う義務があり、事業による受益者は市民全体となるため、徴収する検討をする余地はない

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【24】	(前回のふりかえりの内容)	今後も玉名市小規模附属物長寿命化修繕計画に基づいて、要対策施設の措置と台帳の更新など適切な維持管理を行っていく。
	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)	玉名市小規模附属物長寿命化修繕計画に基づき過年度点検・診断した施設の中で対策が必要と判断された施設の内、照明灯14基に対して措置を行った。
今後の方向性 【25】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了	
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	今後も玉名市小規模附属物長寿命化修繕計画に基づいて、メンテナンスサイクルを運用していく。また、令和6年度以降に定期点検を実施しなければならない対象施設があるため、交付金等を活用しながら対応を行っていくよう検討する予定。	

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【26】	小規模附属物長寿命化修繕計画に基づき、財政負担の軽減を図りながら、効率的なメンテナンスサイクルで維持管理を行っていく。	評価責任者 田上 幸二
----------------------	---	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R02実績	R03実績	R04実績	R05計画
① 市道新設改良設計委託事業	現道の測量・計画路線の設計を委託する。	委託発注件数	件	3	10	11	6
② 市道新設改良事業	道路改良工事を発注する。	工事発注箇所数	箇所	10	12	11	16
③ 市道新設改良工事用地購入事業	計画路線に伴う用地の買収を行う。	用地買収件数	件	34	24	6	47

《事務事業の成果》 【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R02目標	R03目標	R04目標	R05目標
			R02実績	R03実績	R04実績	R05実績
1 整備路線数	整備した市道の路線数	箇所	20	14	14	16
			10	12	11	
2						

《事務事業の評価》

	評価視点	判断理由
(必 妥 要 当 性 性)	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input type="checkbox"/> 影響あり
有 効 性	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。未達成の場合、原因はどのようなことが考えられるか。	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当
効 率 性	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり
公 平 性	【23】 受益者負担について、検討の余地はないか。徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)	今後は、道路拡幅及び要望書の見直しを行い、予算内で安心・安全に通行できる道路整備を行っていく。
	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)	要望書については、市民生活に密着した狭隘な道路で歩行者・自転車との離合時に接触がある箇所を安心・安全に通行できるように道路改良する等という緊急性を重視していたが、令和4年度からは、市民生活や公共交通機関の利便性の向上を図るため、車道の拡幅や歩道の整備による渋滞の解消、交差点改良によるボトルネックの解消等の必要性も考慮して、優先順位を決定した。
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了	
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	限られた予算内で、建設資材の高騰や労務単価上昇で工事の進捗率が上がらない中、要望書の緊急性・必要性など総合的に見て、優先順位を決定し、より有意義な事業の推進を図りたい。	

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見	今後も限られた予算を有効活用しながら、インフラ施設の計画的で効果的な整備に努める。	評価責任者 田上 幸二
--------------	---	----------------

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R02実績	R03実績	R04実績	R05計画
① 六栄線道路改良設計委託事業	道路改良の概略設計を行う	委託発注件数	件	***	***	1	***
② 六栄線道路改良設計委託事業(補助)	道路改良の詳細設計を行う	委託発注件数	件	***	***	1	***
③							

《事務事業の成果》 【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R02目標	R03目標	R04目標	R05目標
			R02実績	R03実績	R04実績	
1 六栄線道路改良設計委託事業	委託件数	件	***	***	1	***
2 六栄線道路改良設計委託事業(補助)	委託件数	件	***	***	1	***

《事務事業の評価》

	評価視点	判断理由
(必 要 当 性 性)	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input type="checkbox"/> 影響あり
有 効 性	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。 未達成の場合、原因はどのようなことが考えられるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成 計画通り委託成果が完成し、成果目標を達成した。
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当 事業の実施手順に即しており、細事業の構成は適当である。
効 率 性	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり R5年度実施予定である地質調査の結果により、経済的な工法を検討する。
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 最低限の委託項目について業務手順に従って実施しており、検討の余地はない。
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 測量設計、地質調査について設計コンサルタントに委託している。
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 類似事業無し。
公 平 性	【23】 受益者負担について、検討の余地はないか。 徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して 見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)
	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)
【24】	今回が初めての事務振り返りである。
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了
【25】	
今後の方向性に対する 見直し・改善の具体的内容	令和5年度実施予定である地質調査の結果により、コンクリートブロック積基礎工の工法を再度検討する。 その結果によって、道路改良工事の事業費が増減することが予想される。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見	交付金を有効活用し、インフラ施設の計画的で効果的な整備を行っていく。	評価責任者
【26】		田上 幸二

事務ふりかえりシート

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	橋りょうメンテナンスサイクル事業		所管課 【2】	土木課
			作成者(担当者)	木下 義昭
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	④便利で快適な都市づくり		
	主要施策(節)	(1)道路交通体系の整備		
	施策区分	(2)生活道路網の整備		
重点 施策 【4】	■ 該当			
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input type="checkbox"/> 市長公約 <input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【 道路法、道路法施行令、道路法施行規則 】 <input checked="" type="checkbox"/> その他の計画【 第2次玉名市橋梁長寿命化計画、玉名市公共施設等総合管理計画 】 <input type="checkbox"/> 該当なし			
事業区分 【6】	<input type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的事业 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input checked="" type="checkbox"/> 施設の維持管理事業 <input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定及び進捗管理事務			
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【 】 款 8 項 2 目 4 細目 1			

《事務事業の目的》

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	2012年の笹子トンネルの崩落事故を受け、インフラ老朽化問題が急務となった。特に橋梁においては2014年の省令告示によって、管理橋梁全てを対象として1橋ごとにメンテナンスサイクル(点検→診断→措置→記録→次の点検)を永久に回すことが義務化された。これは橋梁が損傷してから更新する従来の事後保全型から脱却し、定期点検により劣化を発生して早期修繕することにより長寿命化を図る予防保全型へ変革義務を意味している。
対象 (誰、何に対して、受益者等) 【9】	橋梁利用者、市道橋
意図 (どのような状態にしたいか) 【10】	道路法上の市道橋全てにおいて、1橋ごとにメンテナンスサイクルを永続し、長寿命化修繕計画を見直すことで、メンテナンスサイクルのスパイラルアップを目指す。さらに、玉名市独自の橋梁アセットマネジメントを用いて、措置費用のコスト縮減、確実な措置の進捗およびメンテナンスサイクルのスパイラルアップを行う。

《事務事業の概要》

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】 【 H26 年度から】 【 年度～ 年度まで】
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【 】
実施方法 【13】	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【 】
事務事業の具体的内容 【14】	管理市道橋全てに対する1巡目の点検・診断は2018年度までに完了した。この診断結果に応じて、診断Ⅳ(緊急措置段階)は速やかに措置し、診断Ⅲ(早期措置段階)は点検から5年以内に措置を完了する責務がある。また、今後において、国交省からの補助金を受けるためには、新たな橋梁長寿命化修繕計画において、「新技術の活用」並びに市道橋の「集約化・撤去」を示すことが条件となったため、2022年度に橋梁長寿命化修繕計画(第3次改訂)を直営で作成し公表している。今後はこの橋梁長寿命化修繕計画に基づき、業務を進める必要がある。
	【15】 事務事業を構成する細事業(7)本 ⇒ ① 橋梁補修及び補強工事業(措置) ② 橋梁補修設計及び調査業務委託(措置) ③ 点検・診断事業

《事務事業実施に係るコスト》

		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	全体計画	
投入コスト	事業費 (千円)	国庫支出金	49,716	38,073	69,585	110,514	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	53,900	32,700	56,200	84,400	0
		受益者負担	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	26,272	44,298	32,230	25,170	0
		【16】 小計	129,888	115,071	158,015	220,084	0
	職人 員 の 費	職員人工数	3.70	4.10	3.96	3.96	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,476	5,223	5,429	5,451	
		会計年度任用職員人工数	0.00	0.00	0.00	0.00	
会計年度任用職員の年間平均給与額(千円)		1,950	1,632	1,382	1,291		
【17】 小計	20,261	21,414	21,499	21,586			
合計	150,149	136,485	179,514	241,670			

《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R02実績	R03実績	R04実績	R05計画
① 橋梁補修及び補強工事事業(措置)	診断Ⅲ(早期措置段階)以上の橋梁に対して、診断から5年以内に措置を完了する。	診断Ⅲ以上の橋梁数に対する措置完了橋梁数	橋	42/8	42/14	43/38	44/44
② 橋梁補修設計及び調査業務委託(措置)	交付金を活用して橋梁補修・補強工事を行うために必須条件となる設計業務委託を行うものである。	業務委託発注数	本	1	1	0	0
③ 点検・診断事業	省令告示により義務化された近接目視による点検を行い診断する業務	全体橋梁数における点検診断の進捗率	%	41/40	62/60	84/80	100/100

《事務事業の成果》 【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R02目標	R03目標	R04目標	R05目標
			R02実績	R03実績	R04実績	R05実績
1 毎年国が道路メンテナンス年報として公表している修繕着手率(%)	修繕着手率は診断Ⅲ以上の橋について、補修設計の着手も含めて着手しているかの指標	%	100	100	100	100
2 点検により早期措置段階と診断された橋梁の措置件数	診断Ⅲ(早期措置段階)以上の劣化橋梁に対して、一般的なレベルの措置が完了した橋梁数	橋	8	14	38	44
			42	42	43	

《事務事業の評価》

	評価視点	判断理由
(必要 妥当性)	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない 市道橋のメンテナンスサイクル(点検→診断→措置→記録)は、道路法令に基づき継続する義務があるため、道路管理者が主体的に実施すべきである。
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり 本市の橋梁メンテナンスは先駆的であり、産学官からの評価(受賞等)を得ているため、見直しの必要はないが、国交省の進める新技術の活用並びに集約化・撤去については、検討する余地がある。
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり 道路は最も基本的な社会資本のため、市民生活を支える基盤であるとともに、道路法令により義務化された事業のため、法令遵守並びに市民生活の安心・安全の確保には必要な事業である。
有効性 【21】	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。未達成の場合、原因はどのようなことが考えられるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成 1巡目の定期点検における診断Ⅲの橋梁に対する措置着手が100%に至っているため、数値目標を達成している。
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当 メンテナンスサイクルを構成する点検・診断・措置・記録に対応もしくは関連するよう細事業を設定しているため、各細事業の設定は妥当である。
効率性 【22】	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 当該事業は、約20億円以上のコスト削減を達成するとともに、取組みの妥当性については査読付き論文により、エビデンスを確保している。したがって、現時点での火急の改善は必要ない。
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり 昨年度は現場確認に対し、デジタル技術(ライブカメラ)を採用し、職員の移動時間を縮減している。今後も、業務時間の再配分を目指し、試行・実証及び企業連携を推進する。
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり 民間のノウハウ活用はすでに実施し成果をあげている。ゆえに、引き続き大学等の共同研究を推進するとともに、新たな技術への実証フィールドの提供についても、拡大する必要がある。
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 橋梁は道路構造物の中で、最も難しい構造物のひとつのため、業務難易度が高い。リソース(職員・予算・技術)の拡充が計られない限り、これ以上の業務量増加は難しい。
公平性 【23】	受益者負担について、検討の余地はないか。徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし 農業用水路や上・下水道は、道路法に基づき市道に対し占用手続きを行う義務があるが、未手続の事例も多いため、占用物に対する老朽化対策を指示できない。基本的な法令遵守から見直すべきである。

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)	全国的な先進事例として評価を得ている本事業は、一般的に参考とする専門示方書の範囲以上の先進的な研究や技術や手法を実装している。この実状は本来専門有識者の業務範囲に該当するため、本事業の評価および分析を、専門知識を有する有識者と長期にわたり検証する必要がある。同様に、コスト削減においても、工学的な観点からの精査、および評価を得る必要が残っており、喫緊の課題である。このような検証こそが地域住民へのアカンタビリティの責務である。
	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)	本市独自の取組みを組み込んだ橋梁長寿命化修繕計画(第3次改訂)を策定するため、計画の根拠となる参考文献を、自ら論文として査読を受け確保した。参考文献の確保から直営化したことで、昨年度において本市独自の橋梁長寿命化修繕計画を公表することができた。なお、この計画作成についても直営化しているため、業務委託費のコスト削減に寄与している。
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了	
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的な内容	橋梁メンテナンスサイクルは、定期点検に基づく診断Ⅲ以上の橋梁を次回点検(点検から5年以内)までに措置を講ずべきと示されているため、本事業での目標設定は診断Ⅲ以上の橋梁に対する措置数を目標に設定している。しかし、本市は全国の市町村の進捗平均と比較しても進んでいる先進自治体のため、2巡目点検結果に措置については、予防保全段階となる診断Ⅱの進捗を括弧書きで示すなど、他自治体以上の高い目標値を活動目標に加えることを検討する。	

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【26】	玉名市の橋梁メンテナンスサイクル事業は、全国的に高い評価を得ており、今後もトップランナーとしてこの取り組みを継続していく。	評価責任者 田上 幸二
----------------------	---	----------------